

開校50周年 好きを育み得意を伸ばす慈林笑楽好 ～あいさついっぱい 元気いっぱい やさしさいっぱい 学びいっぱい～



慈林小だより



令和8年度 夏休み号 令和8年7月17日(金)

50周年記念キャラクター「じりん子丸」

「体験の質を高める」

校長 石原 昌治

じめじめとした梅雨空から一転、暑い夏が到来しました。早いもので、明日から夏休みに入ります。この1学期、子どもたちは、さまざまな活動に意欲的に取り組み、多くの成長を見せてくれました。日々の教育活動を支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、夏休みは、普段できない体験活動にじっくり取り組むことができる時期となります。様々な体験活動をとおして、子どもたちは多くのことを学ぶことができるという調査結果があります。

○「自然体験や生活体験（刃物を使った調理、公共の場所のゴミ拾いなど）を多く行った者ほど、自己肯定感が高くなり、自立的行動習慣や探究力が身についている傾向がある」

【出典】独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査（令和元年度調査）」

また、文部科学省生涯学習調査官で「子どもの体験と成長」を研究している青山鉄兵先生の講義を以前拝聴したことがあります。青山先生は、体験の量や内容よりも「体験の質を高める」ことが大切だと強調していました。青山先生は、「質の高い体験」について以下のようにお話されていました。

○高価な体験プログラムや特別なイベントでなくても、近所の公園での泥んこ遊びや、道端の草花を観察することの方が、それに夢中になれる子どもにとっては非常に「質の高い体験」になり得る。

○親ができることは、「子どもが何に目を輝かせ、何に熱中しているのか」を大切にして、その興味を伸ばせるような環境をさりげなく用意してあげること。また、目に見える成長を求めすぎないこと。

言うまでも無く、夏休み中は、安全で健康に過ごすことが何よりも大切です。交通事故や水の事故、熱中症への対策、スマートフォンやお金の適切な使い方等についてご家庭で話し合う機会をもっていただければ幸いです。

多様な「質の高い体験」を通して一回り成長した子どもたちが、笑顔でサマースクールに登校してくることを教職員一同楽しみにしています。